

平成26年度活動報告書 (1/3)

学部・委員会名 コンピュータセンター

学部長・委員長等氏名 センター長 穂坂 賢

担当所管 コンピュータセンター事務室

テーマ 【教育支援】情報基礎(一)、情報基礎(二)の授業支援

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>目標:円滑な授業運営のための支援を行う</p> <p>評価目標:</p> <p>①計画通り実施できたか</p> <p>②問題点、改善点の把握と対処ができたか</p>
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<p>以下の事項を実施する</p> <p>①時間割調整と作成</p> <p>②TA・アルバイト配置調整</p> <p>③TA・アルバイト労務管理</p> <p>④パソコン保守実施（春、夏）</p> <p>⑤演習室点検</p> <p>⑥非常勤講師との意見交換会実施調整</p> <p>⑦テキスト改訂の調整</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>①連絡票により日常的な問題点を把握する。</p> <p>②意見交換会（7月、12月開催）により授業の様子、問題点、テキスト、シラバス等に対する意見、改善点チェックするとともに欠席の多い学生などの把握も行う。</p>
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <p>TA,アルバイトの全員が配置通り1年間続けて勤務できたことで、信頼関係が築け授業運営も円滑にいった。また意見交換会では非常勤講師からの評価も高かった。</p> <p>機種更新に合わせたテキストの改定も進んでいる。</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた</p>
5. 課題及び改善事項
<p>TA 配当枠（予算）が、実際のクラスよりも少ないため、すべてのクラスに TA を配置することができない。そのため、TA 配当クラスと配当できないクラスで授業に差がでている。MOS 資格を持った学生を中心に授業補助アルバイトを採用しているが、やはり大学院生と学部生では指導等に差がついた。均等に配置できるように十分な TA 配当枠を確保するか、授業補助アルバイト予算で大学院生を採用できると理想的である。</p>
6. 平成27年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書(2/3)

学部・委員会名 コンピュータセンター
 学部長・委員長等氏名 センター長 穂坂 賢
 担当所管 コンピュータセンター事務室
 テーマ 【教育支援、就活支援】 Microsoft Office Specialist 対策講座及び認定試験の実施

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
①パソコン利用技術の向上 ②就活に役立つ認定資格の取得
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
以下の手順で実施する ①実施計画立案・調整 ②実施準備 ③広報 ④説明会開催 ⑤受付 ⑥講座開催 ⑦試験運用
3. 達成度を判断するための指標
①説明会でアンケート収集 ②講座でアンケート実施 ③実施結果の確認と報告を行う。
4. 成果・評価
<p>■成果</p> <p>1月の説明会では多くの学生が参加し、アンケート内での受講希望においては、定員を大幅に超える科目もあった。今後は、下記の日程で3. ②③を実施するため、現時点での評価は暫定とする。（最終評価は、3月13日の試験が終わり次第改めて実施する。）</p> <p>講座A日程：2月23日～26日（27日試験） 講座B日程：3月9日～12日（13日試験）</p> <p>■評価（5～1で記載してください）</p> <p>4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた</p>
5. 課題及び改善事項
講座の開講が春休みや夏休み等、期間を限定しての開講となっており、且つ試験数も定員が限られている。日程によっては、就活等で受講できない学生も発生しているため、より多くの学生が受講できる機会を増やすことが課題となる。
6. 平成27年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成26年度活動報告書 (3/3)

学部・委員会名 コンピュータセンター学部長・委員長等氏名 センター長 穂坂 賢担当所管 コンピュータセンター事務室

テーマ【教育支援、研究支援、キャンパスライフ支援】ネットワーク環境の基盤整備と運用およびセキュリティ管理
 ※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
<p>基本方針に基づくネットワーク環境整備</p> <p>① 教育効果の向上に資する基盤</p> <p>② 研究活動を支える基盤</p> <p>③ キャンパスライフに役立つ基盤</p> <p>④ 大学運営を支える基盤</p>
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
<p>日々の運用のなかで以下のことを実施</p> <p>① 運用状況の確認</p> <p>② 利用状況の確認</p> <p>③ 利用者サポート</p> <p>④ 障害対応</p>
3. 達成度を判断するための指標
<p>運用状況、利用状況、利用者サポート状況、障害対応状況等を統計処理し、定例会議で確認するとともに改善点を洗い出す。</p>
4. 成果・評価
<p>■成果 ネットワーク基盤・サーバの運用状況監視、サーバの脆弱性対策および SPAM メールやウイルス対策などのセキュリティ対策、メールや学生ポータルなどのサービスおよびコンピュータ演習室・自習室などの利用状況の確認、利用者サポートや障害対応を実施した。また、それらを毎月集計した結果を定例会議で確認し、改善の必要があった点については対応を実施した。</p> <p>■評価（5～1 で記載してください） 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた</p>
5. 課題及び改善事項
<p>平成26年度は、ネットワークシステムの更新があり、運用監視手順や集計の取得手順の変更に手間取り、必要な集計が出来ない部分があった。また更新に伴う変更点や新しいサービスについての利用者サポートも更新直後に増加した。今後は、安定かつ効率のよい監視方法の確立、新たなサービスの集計方法の確立と情報の蓄積を進め、客観的な評価ができるようにすると共に、更新後の新サービスや変更点などをホームページやガイドブック等に反映し、利用者がサポートなくとも利用できるようにする。</p>
6. 平成27年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。